

教室に來た教官を

なぐる、ける

東教大(農)学部で学生十人

東京・駒場の東京教育大学農学部でストが始まったのを知らない文学部教官が一般教職の職業をしようとして現われたと見え、約十人の学生になぐる、けるの暴行を受けたことがわかった。事態を重視した同大農学部は十九日、農学部三層学部長名で学内に宣言を出し、文学部も事態調査委員会を設立させた。

暴行されたのは文学部のI助教(漢文)。事実調査委員会がI助教から受けた説明によると、さる二十二午前八時五十分ごろ、I助教は講義のため農学部八号室に行った。約二十人の学生が講義を受けに来ていたが、いきなり二人の学生が「授業を止めてください」と発言した。「学生大会の決定か」と聞き直しても返事がなかったため、I助教は移転問題をはじめとする紛争について話し出した。

生らしい男を先頭に約十人が突寄せ「学生大会の決定だ」と授業中止を要求、即し問答を繰り返しているうち扉をけられた。続いて左胸を突かれ、倒れたI助教は頭で頭を打ち、立ち上がったと見られる。I助教は「授業を止めてください」と発言した。このためI助教は「学生大会の決定か」と聞き直しても返事がなかったため、I助教は移転問題をはじめとする紛争について話し出した。

I助教は、決定を知らず、教室にはいなかったという。

5/29ヨミウリ

5/29サンケイ

朝刊

図書館入館にも 教官の保証印

紛争中の東京教育大(宮島福助学長代行)では、農学部がさる四月、警動署を呼び出した学生だけの入館を認めるという方法で、一層授業再開して問題となったが、この日は大館内にある図書部へはいる学生からの指導教官の保証印のついた入館申請書を提出させてチェックを求めた。しかしこの入館申請書に押印した指導教官が大館のロッカールームに反対する教官の場合、その申請書を持った学生の入館を拒否していた事実が二十八日開かれた文学部教授会の席上で明らかになった。

東教大 学長代行の退陣要求

東京教育大学文学部は四日の教授会で、賛成多数で「宮島福助学長代行では事態收拾は困難。ただちに新学長を選出すべきである」と実質的な退陣要求をすることとを決定し、次の評議会に教授会名で申し入れることになった。

一連の大学紛争で学長、学長代行が内部から退陣要求されるのは初めて。

宮島代行は、さる一月、代行に就任したあと運動部専入、ロッカールームなど、タカ派、階級で紛争

教授会が福井忠夫図書部長が事実を認め、I助教はさる二十日の評議会に宮島学長代行からくわしい事情説明を求め、あらためて退陣を要する。

夕ヨミウリ

取捨懸く、移転進行推進派から強く支持されており、この中し入れが調整の対立をさらに激化させることになると思われる。